

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービスじゃんぐるHIRO		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 4日		~ 2025年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	49	(回答者数) 31
○従業者評価実施期間	2025年 1月 4日		~ 2025年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	スタッフとお子さんが1対1で関わることにより、個に応じた丁寧な支援ができていること。場合により、同じ時間帯の他児数人と一緒に活動することで他者との関わりが持てること。	小学校、中学校などで苦手さを感じていることに、スタッフが関わりながらじっくりと取り組むことで「やってみたらできた。」という自己肯定感を味わいながら自信へとつながるようにしている。	1つの活動を繰り返し行っていく中で、お子さんが自分一人で取り組める工程を徐々に増やしていき、同じ活動でも発展させていくなど変化をつけ、少し難しいことにも挑戦してみようという気持ちを持てるようにしている。
2	宿題や定期テスト対策など、学習面で不安なところを専門性のあるスタッフがマンツーマンで関われること。	本人が苦手さを感じているところを聞き取り把握することで、その部分を重点的に丁寧にゆっくりと説明し、時間をかけておこなうことで理解を深められるようにしている。	テスト後など、振り返りをおこなうことでどのようなところに躓いていたのか把握し、繰り返し勉強していくことで学習の定着を図っている。
3	正社員、パート社員など立場に関係なく相談しやすい環境にあり、お子さんの関わりなどで困ったことがあった時には親身になって聞いてもらえ、アドバイスがもらえること。	様々な立場のスタッフから意見を聞くことで1つの事例についていろんな側面から捉えることができ、自分の関わり方にとらわれすぎず、多方面からのアプローチができるようにしている。	他のスタッフも一緒に関わり、それぞれの関わり方を参考にしたり、その事について振り返りをおこなうことでよりよい支援ができるようにしている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	1対1の個別でじっくりと寄り添いながら関わる事ができる反面、一斉指示が入らない、他とトラブルになるなど集団の中での困り感がなかなか表出しにくいところ。	対大人との関わりが主になるため、お子さんの心情を読み取ったり合わせたりできることや、他とトラブルになる前に手立てをするため普段の様子が見えてきづらい。	個別の関わりだけでなく、同じ時間帯のお子さん同士がもう少し関わられるような場面を設け、子ども同士のやりとりの中で起こりうる事について、スタッフが仲介しながらもそれぞれが相手を思っただうすればよいかを考えられるような環境を整えることが大事。
2			
3			